

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23017

| 「学ぶ力」 | |
|--|---|
| 成果 | 課題 |
| <p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「課題に対して向き合おうとする気持ち」や「興味をもったことに対して意欲的に学ぼうとする姿勢」が見られるようになってきた。 ◇学力テストの結果から「目的に応じて話の内容をとらえる」「考えや感想をまとめ伝え合う」点についてよい結果が見られた。 ◇進んで学習に取り組み、わからないことは友達や先生に質問したり、自分で調べたりする子どもが増えてきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇「自分の考えを伝える」「他者との関わりで学んだことを自らの考え方に生かす」などの姿が十分ではない。 ◇子どもたちに「新たな考えを形成する」思考が十分育っておらず、個人の気付きが学級全体に広がりづらいという課題がある。 ◇友達の意見や考えを聞き、自分の考えを見つめ直したり、高めあったりする力が足りない。 |
| 「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題 | |
| <p>◇札幌市の共通指標の「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」「人の役に立ててうれしいと感じることがある」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な意見が高く、仲間と関係を築き学ぼうとする姿勢が高まっている。更に高め合う関係に成長していくために、子どもたちがお互いを尊重し合う風土を醸成していく必要がある。</p> | |
| 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 | |
| 学ぶ楽しさを実感し、交流する中で思いをもち、自ら考える力 | |
| 課題探究的な学習の推進 に向けて | 自主的な活動の充実 に向けて |
| <p>◇研究主題「自ら考え ともにひびき合う 子どもの育成」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒「ずれ」から子どもが「問い」をもてる課題設定 「どうして?」「解決したい!」という意欲を引き出す導入 子どもの思考の跡がしっかりと残る意図的な板書 ⇒交流の必要感を生む課題（協働探求） 自分の考えをより深めたり広げたりするために、「友達の発表を聞きたい」「自分も伝えたい」という思いをもつ場の設定 自ら「やってみよう!」と感じる授業構成 | <ul style="list-style-type: none"> ◇よりよい学校を「創造」するための委員会活動の充実 ⇒全員が活動を見通し、効果的に仕事を行うことができるための情報共有（クラスルームを活用） ◇自分たちの活動をお互いに評価し、価値付け合う場の設定 ⇒「すてきの花」を咲かせる活動（お互いのよさを交流） ◇異学年交流の充実 ⇒他者を意識して、話し合いや準備を行い、実際の交流の中で関わり合いながら、お互いに多くのことを学ぶ機会とする |
| 「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について | |
| <p>◇自分たちの課題解決に向け、複数のツールの中から適当なものを児童が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前に指導する機会を設ける。</p> <p>◇クロームブックの各種機能から意見の集約や可視化など、一人一人の意見や考えが反映するシステムを生かすことや、パートナー校との連携のためにオンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声をつながられるようにする。</p> | |

<本プログラムの実行に向けて>

